TOPICS 1

札幌中心街の顔だった百貨店の跡地が にぎわいの場として生まれ変わる

COCONO SUSUKINO（ココノ ススキノ）
すすきの交差点に あらゆる人の「あそびば」

すすきの交差点に、ニッカウヰスキーの看板とともに街の顔としてあり続けた「ススキノ十字街ビル」。百貨店として始まり、変遷し、いま、「COCONO SUSUKINO（以下、ココノ ススキノ）」としてよみがえる。

▲11月30日にオープンする「ココノ ススキノ」（外観イメージ）

新しいシネマ体験と大人の社交場「カジノ」

ココノ ススキノは、「札幌の街に『あそびば』を～昼も眠らない街ススキノへ～」を掲げ、ススキノの新たなにぎわい創出を目指す。ココノとは「此処」と「個々」であり、訪れる人が自分らしく楽しめる居場所になるという意志が込められている。それだけに食品スーパー、レストラン、カフェ、ドラッグストアなど多様な85店舗をそろえた。

なかでも「あそびば」にふさわしいのが、映画館「TOHOシネマズ すすきの」。映像・音響・座席にこだわり抜いた「プレミアムシアター」、空気を震わせる音響を体感できる「轟音シアター」、映像と音響に最新技術を駆使して映画に没入させる「ドルビーシネマ」が導入され、新しいシネマ体験ができる。将来的には、コンサートや演劇、スポーツのライブ中継なども行なう予定だという。カジノバー「BLOW すすきの」やバーカウンターのあるゲームセンター「GIGO」とともに、ススキノのエンタメシーンを彩る。

待ち合わせにも使える広場 誰にとっても憩いの場に

ココノ ススキノには、バス停に面して「交通待合広場」、地下鉄すすきの駅との接続口付近に「待合スペース」がある。今井優希氏によると、かつての「ロビ地下」のように待ち合わせスポットとして活用してほしいから、ベンチやソファを設置して快適に過ごせるようにした。また、屋外広場「ココノテラス」は、すすきの交差点を眺めながら思い思いに過ごせる憩いの場として整備されている。さらに、地域共創型ラジオスタジオを設け、「街のメディア」として地元を盛り上げる。地元の人たちの日常に寄り添う施設を目指しているココノ ススキノは、「あそびば」として、札幌市民のサードプレイスとして定着していくのだろう。

お話を伺った方
東急不動産株式会社
開発企画本部
開発第二部
今井 優希 氏

DATA
https://cocono-susukino.jp
住所
札幌市中央区
南4条西4丁目1番地

moyuk SAPPORO（モユクサッポロ）
150周年の狸小路商店街に ”タヌキ“の名をもつ街の顔

狸小路商店街と札幌駅前通の交差点の一角に、かつてサンデパートがあった。時代とともに街は移ろい、再開発が進められた同地に、いまは「moyuk SAPPORO（以下、モユクサッポロ）」が立つ。

▲「まちなかにある自然への入り口」をうたう「AOAO SAPPORO」

来館者数18万人を突破！ 都市型水族館のにぎわい

今年150周年を迎えた狸小路商店街に、7月20日、モユクサッポロがオープンした。moyukはアイヌ語で、mo＝小さい、yuk＝獲物を指し、「タヌキ」を意味するという。ここを中心に「日常のちょっとした嬉しいモノやコトが集まれば」との願いを込めて名づけられたという。なるほど、飲食店をはじめ、ソニーの直営店やダイソーの新業態「スタンダードプロダクツ」など、日々の生活を豊かにしてくれる店ぞろえだ。開業から2カ月、「若いファミリーとインバウンドが多い」といい、狙いどおりの集客に成功しているようだ。

なかでも連日にぎわっているのが、都市型水族館「AOAO SAPPORO」。ペンギンの行動展示やネイチャーアクアリウム、海の世界を再現したデジタルアートを通して、生命のワンダー（驚異、不思議）を体感できる。また、展示生物の健康管理やエサづくり、水槽に供給される人工海水の製造など水族館の裏側を見学できるのも興味深い。さらに、昼と夜とでは異なる照明や音楽、アロマによる空間演出がなされている。これらの仕掛けによる、これまでにない水族館体験が、多くの人たちの心をとらえ、開館50日にして来館者数18万人を突破した。

大通エリアの憩いの場として 狸小路商店街の一員として

モユクサッポロは、「にぎわいの場」であると同時に「憩いの場」でもある。7階に整備された「スカイガーデン」は、コンパクトながらガーデンテーブルセットが設えられている。人工芝や植栽の緑と風が心地よく、ビルの狭間のオアシスだ。館外エレベーターで、市電「狸小路」停やさっぽろ地下街ポールタウンから直行できて立ち寄りやすく、街中の憩いの場として定着しそうだ。

もちろん、狸小路商店街の顔でもある。いまは「クリスマスや春節の大型イベントを企画中で、来年からは狸小路商店街のナイトバーゲンにも参加予定」なのだといい、同商店街の一員として、訪れる人たちの心を満たす時間の流れる場づくりを目指していく。再開発の目的どおり、同商店街をはじめ大通エリアの「にぎわい創出の場」「交流空間」としての期待が高まる。

▲「モユク スカイガーデン」からは変わりゆく札幌の街並みを見渡せる

DATA
https://moyuk.jp
住所
札幌市中央区
南2条西3丁目20番地

コラム
BiVi新さっぽろ
新しくなる新さっぽろ 再開発の総仕上げ

お話を伺った方
大和リース株式会社北海道支店
川合 優 氏

日々の暮らしに輝きを 都市型商業施設、誕生

時代の変化に合わせ、変わり続ける大都市・札幌。いま注目エリアのひとつが、大規模再開発の進む「新さっぽろ」である。1970年代に「副都心」と位置づけられ、交通の要衝、生活の場として発展してきた。ところが、同エリアも高齢化や人口減少と無縁ではない。また、市営住宅の老朽化による建て替えと集約により、余剰地ができた。その土地の活用と新たなにぎわいの創出を目指し、2015年に「新さっぽろ駅周辺地区まちづくり計画」が策定される。それに基づき、地下鉄新さっぽろ駅とJR新札幌駅の交わる一角に位置するI街区では、商業施設とホテル、医療施設、タワーマンションの建設が進む。各施設は空中歩廊「アクティブリンク」で緩やかに結ばれ、回遊できる造りだ。

I街区の顔ともいえるのが、都市型商業施設BiVi新さっぽろ。開発を手がけた大和リース株式会社北海道支店の川合優氏によると、BiVi（ビビ）とは、Brilliant（光り輝く）とVivid（生き生き）から成るブランド名で、足を運ぶたびに新しい喜びと驚きのある場所、何度も幸せになれる場所でありたいという思いが込められている。

”空“の広がる屋内広場 冬でも座れるテラス席

BiVi新さっぽろのコンセプトである「緑豊かな空間から一人ひとりへ素敵な日常を」を体現するのが、2階に設計された広場である。そこは屋内ながらまるで緑あふれる公園。「天井に16m×16mのLEDビジョンを設置し、空を再現します」と、川合氏が明かす。しかもその空は季節に合わせて変わるという。さらに「広場の周りに飲食店を配置し、テラス席を用意した」。半年近くもの間、雪に閉ざされる北海道で、一年中いつでも開かれた公園とテラス席は貴重である。日々の暮らしにうるおいをもたらしてくれる場や店舗がそろう、新さっぽろの新しい顔は、いよいよ今年の秋にオープンする。さらなる街の若返りと活性化が期待されている。

（文責／一條亜紀枝）

▲館内の注目スポット「室内公園」（イメージパース）